

北 どころ

第120号 2026年3月1日 (毎月1日発行)

中国5県絶景の旅⑨

つし

「山口県下関市・角島大橋」

——一般道路としては屈指の長さ

出発したのは2月4日水曜日、三次市の車のメーカーの整備工場で愛車の軽バンの1年点検、それから高速道路に入ったので、目的地の角島は明日訪問する予定。雲一つない快晴だった。中国縦貫道路、文字通り、中国山地のやまなみを縦断する。真っ青な空に山の稜線が鮮やかに浮き上がって、まるで絵葉書の中を

滑空している気分。ただし、安全運転第一、高速道では追い越しをしないと決めている。鹿野サービスエリアで昼食を食べ、山口インターチェンジで高速を降りた。去年、山口市を訪れたときに、立ち寄れなかった場所がある。県道21号線を進んで県道204号線と交錯する四つ角を左折。その先の湯田温泉の中に「中原中也記念館」がある。入館料は

330円。直筆の手紙がたくさん展示されているが、デジタルで墮落した現代人には新鮮である。中原中也は、大正から昭和初期に活躍した天才詩人で、結核を患い30歳で夭折。親友である小林秀雄のエッセイを読むと、ぶっとんだ精神破綻者だ。芸術に血肉を捧げねば、サーカスの「ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん」の音は表現できない。

記念館から少し離れた場所に、中也の「童謡」の詩碑がある。その隣に種田山頭火の句碑。温泉好きの山頭火は、湯田温泉の近くで暮らしていた時期があり、湯田温泉を詠んだ句を多く残している。

瀬戸内海のしまなみ海道は、何度か車で走ったことがある。中国5県絶景の旅でも、昨年6月に生口島を訪れた。そのときは因島大橋や生口橋という海峡にかかる巨大な橋を渡った。

日本海の島にも渡ってみたい、そう願ってネットで検索、見つけたのが角島である。しまなみ海道と違って、海に近い位置に橋がある。全長1780mの一般道路の橋、記憶に残る「絶景」だった。ただ、昨日のように快晴だったら海の色も映えたのにと、少し残念に思う。

窓を全開にして、潮風を浴びながら島に渡る。橋脚が高くないので、海の上を走っているという感覚が強い。島の「瀬崎陽の公園」の高台に立って、今度は逆方向から海士ヶ瀬(あまがせ)にかかる橋を眺望した。

角島は、東の牧崎と西の夢崎の二つの岬が牛のツノのように突き出しているから、そう呼ばれるよ



2000年開通「土木学会デザイン賞 2003」の優秀賞受賞



角島灯台は総御影石造りの無塗装灯台

発行：どら書房

誌面デザイン：ROUTE183

協賛：九日市愛好会